

## 低炭素研究プログラム

### 委員会からの主要意見

#### 現状についての評価・質問等

- 環境研が実施すべき、また環境研にしか実施できない研究であり、成果を期待する。
- 分野連携も含めて、Scientific な研究の計画として高く評価できる。
- モニタリングは継続の価値があるが、実際に削減対策の実行に繋がることをどのように担保するのか？また、各国政府に働きかけるために、世界全体でどのような協力体制を築いていくのか？
- 低炭素社会実現に向けた国際制度のあり方研究が、どのような主体で行われ、どのようなコミュニティで共有されているのか？
- 統合プログラムと個別プログラムの“棲み分け”が、低炭素だけでなく他のプログラムも含めてどのように設計されるのか？

#### 今後への期待など

- 低炭素社会実現に向けた国際制度のあり方研究をはじめとして、その成果を誰に見せるのか、どのように使われるかに着目しながら、成果の社会への橋渡しの仕方を検討して欲しい。
- NIES が中心的に実施すべき研究の範囲を線引きし、研究全体の司令塔になるようなアプローチが重要ではないか。
- 国際制度のデザインは、非常に重要であり、かつ非常に興味深いが、現在の国際制度の延長線上には解が無い場合、具体的な新規提案も検討すべきでは無いか。

### 主要意見に対する国環研の考え方

- ①モニタリングは、削減対策の検証材料の一つとして使えるように精度を高めていきます。同時に、観測された現状の素早い情報提供などにも努めます。現在も GEO (Group on Earth Observations) 等の枠組みを通じて国際協力を進めています。
- ②国際制度のあり方研究は、国際的な専門家や交渉に携わる主体を対象に英語で発信していくことが重要と考えています。基本的にはパリ協定をベースに解を探す姿勢で、具体論の提案を検討します。
- ③NIES と国内外の研究機関との役割分担と、NIES が中心となって実施すべき研究について、今後、明確に整理してお示しできるようにしたいと思います。それに基づいて研究を推進して参ります。
- ④統合プログラムでは、個々のプログラムの成果として得られるモデルや評価手法を 1 つの枠組の中で組み込んで、複数課題を同時に解決するような施策や手法を明らかにすることを目指しています。ただし、低炭素分野に関しては、国や地方といった領域を対象に、統合プログラムで深く掘り下げた分析を行い、地球規模の分析が中心の低炭素プログラムと補完的に役割分担します。